

北羽新報

発行所 北羽新報社
〒016-0891 能代市西通町3-2
0185-54-3150
0185-54-3155
0185-54-3158
0185-54-3159
0185-54-3160
0185-54-3161
0185-54-3162
0185-54-3163
0185-54-3164
0185-54-3165
0185-54-3166
0185-54-3167
0185-54-3168
0185-54-3169
0185-54-3170
0185-54-3171
0185-54-3172
0185-54-3173
0185-54-3174
0185-54-3175
0185-54-3176
0185-54-3177
0185-54-3178
0185-54-3179
0185-54-3180

木のきいた家。

World House
ワールドハウス
能代市宇鶴島33-7
☎58-2023

解体工事 整地

有たくみ建築工業
秋田県知事許可(般)第30086号
能代市警字上後野42-11
☎09-09-5330-43337

最先端の性能を体感

オート
地域
4月の
複眼

522件、総額1億円超える

能代市 想定額の4分の1申請 29日時点 減収事業者に20万円支給

新型コロナウイルス感染症の影響で収入が3割以上減少した事業所に一律20万円を支給する能代市独自の「事業継続支援金」の申請受け付けが29日時点で郵送、窓口来訪合わせて計522件と想定件数の4分の1を超えた。総額で1億円以上が指定口座に振り込まれる。申請した日から4日後に現金が振り込まれるスピード感が好評だ。電子申請に二の足を踏む個人事業者が少なくない国の「持続給付金」への呼び水にもなっている。

事業継続支援金



新型コロナウイルスの影響で売り上げが前年同月比で5割以上減少した個人事業所に最大100万円、法人に同200万円が支払われる国の持続化給付金に準じて行う。前年と比べ売上高が3割以上減った月がある事業所が対象で、業種は問わない。市内全体の3分の2に当たる約2千事業所を想定し、交付総額約4億円を盛り込んだ関連予算案を12日の臨時議会で可決。5割以上の減収なら国の給付金と合わせて受給できる。今年1〜5月に開業した事業

者も対象。感染拡大を防ぐため、相談は電話予約制にしている。商工港湾課によると、15日から29日までで個人事業主から404件、事業所・法人から118件の申請を受け付けた。郵送で322件、窓口来訪で200件を処理した。業種は飲食、建設、製造、運送、自動車整備など多岐にわたる。電話相談は663件に上る。同市上町で飲食店を営む男性(68)は「30万円がもらえる県の休業協力金は申請から3週間もたつが、いまだに入金がない。一方で市の20万円の入金はずっと早かった。食材の購入や資金繰りで助かった」と話す。国の給付金はインターネットによる電子申請しか認めないため、パソコンやスマートフォンに不慣れた高齢者らは申請できない事態に陥っている。窓口来訪200件のうち134件は市の支援金と合わせた国の給

面会や委託業者制限

会員14法人は施設や在宅の高齢者に各種介護サービスを提供する事業所を運営しています。新型コロナウイルス対策は、「マスク着用、検温、手洗い、消毒の徹底は(サービス形態が違っても)同じです。入所・居住型の施設は面会制限を行い、委託業者も極力、施設内に入れていない。職員とその家族に県外との往来があれば2週間休ませ、ほかの職員の時間外勤務などでやりくりした。うち(ショートステイ)本来の役割は崩したくない。

能代地域介護サービス事業者懇談会
副会長 川尻信夫さん(69)

コロナ危機 現状と課題は



9 現状と課題は
い。会員のショートステイは新規入所の受け入れを断っています。グループホーム、特別養護老人ホームなども同様です。対策は長期化しそうです。心配なことは、「毎日が心配。インフルエンザなら、すぐ病院へ行き検査を受け、すぐ(結果が)分かる。新型コロナウイルスは治療薬やワクチンができていない状態。またインフルエンザの季節がやって来て、二つの感染症への警戒が続くことになる。職員の精神的なストレスもあり、どこまで持ちこたえてくれるだろうかと思う。衛生用品の確保も心配だ。特にマスクは一時より買えるようになってはいるが値段が高い。安定した価格で安定供給できると、会員で共同購入

介護計画に感染症対策を

するところを検討したい。望む支援策は。「国には衛生用品の調達費や人員確保など、感染症対策を加味した介護報酬改定を望む。能代市の第8期介護保険事業計画策定の際は、感染症対策を盛り込んでほしい。利用者を守るために、職員にはPCR検査など必要な検査を定期的に受けさせてほしい。症状が出てからでは遅い」
高齢者の生活を支える介護事業者の役割は。「利用者には、老後を安全に安心して、楽しく、人間らしく暮らしていただきたい。そのために、いろいろな代替案を考え、工夫していかないといけない。オンライン面会もその一つだ。アイデアを出し合い何ができるか検討していきたい」
(渡部 祐木子)

イベント制限緩和

市コロナ対策本部 屋外は8月全面再開

能代市の新型コロナウイルス感染症対策本部会議は29日、市主催のイベントを段階的に緩和することを決めた。約3週間ごとに制限を緩和し、感染防止策の徹底を前提として8月1日から屋外で行うイベントは人数制限を設けず全面再開する。屋内イベントでは、観客数を収容可能人数の半分以上とする制限は残す。市職員には今月末まで県境越えの自粛を呼び掛け、6月19日以降に全面解除する。政府が25日、全国での緊急事態宣言の解除に合わせて、イベントの開催制限と外出自粛の段階的緩和の目安を示したことに伴い、市主催のイベントの取り扱いを見直した。6月18日までは屋内のイベントは収容人数の半分以上で上限100人、屋外は人と人の距離を十分に確保(できれば2メートル以上)で上限200人とする。6月19日から7月9日までは屋内は収容人数の半分以上で、屋外も人の間隔を十分に確保した上でそれぞれ上限1千人に拡大。同10日から31日まででは同じ条件で屋内外ともに上限を5千人に広げる。

渚城雑記

冬越した。2年目の。10ほどに。葉を6枚付に育つ。日、白山山。林道の冬。が解かれた。里町の世界。産地の二。れにブナ林。る岳岳自然。育林を久々。た▼ニッ森。が多く、登山。折れたブナの。に押し倒さ。まのブナも。よく見ると。花がいくつ。た。実もあつ。袋は、舗装。面に落とし。のように付。に入ると、口。